

平和のいしずえ 2020

語り継ぐ戦争の記憶

会期：7月23日（木・祝）～9月6日（日）

休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）

お父さん
お母さん
ボクも空へ
やつて下さい



栗東歴史民俗博物館

会場：栗東歴史民俗博物館 第2展示室

〒520-3016 滋賀県栗東市小野 223-8

TEL 077-554-2733/FAX 077-554-2755

<http://www.city.ritto.lg.jp/hakubutsukan/>

平和のいしずえ 2020

語り継ぐ戦争の記憶

今年のアジア・太平洋戦争の敗戦から 75 年目の年を迎えます。

栗東市では昭和 63 年（1988）に「ここをつなぐふるさと栗東」平和都市宣言を行いました。以来、恒久平和を実現するため、さまざまな取り組みを行っています。栗東歴史民俗博物館でも開館以来、30 年近く「平和のいしずえ」を通じて、市民のみなさんに戦争と平和について知っていただく機会を設けてきました。

さて時間をアジア・太平洋戦争が始まる前に戻してみましよう。昭和初期、それまで明治～大正時代にかけて日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦でのシベリア出兵など、敗戦を経験しない戦争の時代を経た日本の地域社会には、積み重ねた戦勝の記憶がちりばめられていました。人が集まる神社や寺には戦闘のなかで奪取した戦利品などが飾られていました。また、栗東市域には里内文庫のように日露戦争での戦勝の記憶を地域に広めるために設立された私立図書館も設けられ、年に何度も戦勝を記念したイベントで戦争とその勝利の記憶が語り継がれていました。国民のなかには不敗と戦勝によって得られたレガシー、中国大陸での権益のイメージが刷り込まれていったことは言うまでもありません。昭和 12 年（1937）の日中戦争、昭和 16 年（1941）の太平洋戦争の開戦にはこうした国民の記憶が少なからず影響したでしょう。昭和 20 年



▲日露戦争でロシア艦隊を日本艦隊が圧倒した日本海海戦を記念した記念日、海軍記念日の里内文庫の様子と記念日の旗。戦勝記念の品々が展示されている。



(1945)、この戦争で日本は初めて敗戦を経験します。戦後、神社や寺の戦勝記念品は撤去され、戦没者をたたえる忠魂碑などの記念碑も撤去されていきます。戦勝の記憶から、敗戦の記憶へと人々の戦争にまつわる記憶も塗り替えられました。

戦場での悲惨な体験、空爆により焦土となった風景、食べるものにも困った暮らし、さまざまな記憶から人々は戦争のない時代を望むようになります。敗戦から今日に至るまで日本は直接戦争を経験することなく 75 年を経過することができています。それはとりもなおさず、戦争を経験した世代が戦争の記憶を語り継いで



▲敗戦後塗りこめられた「八紘一宇」の文字。世界の国を天皇のもとに一つ屋根の下にするという意味で用いられ太平洋戦争遂行のスローガンとして用いられた。
(上砥山 日吉神社)

きてくださったからにはほかありません。しかしながらこの世代は次第に鬼籍に入っていられることが多くなってきています。戦争を経験した世代が減少するなか、栗東歴史民俗博物館では「平和のいしずえ」展で積み重ねてきた彼らの記憶をいまこそ語り継いでいく必要があると感じています。今年の展示では「平和のいしずえ 2020～語り継ぐ戦争の記憶～」展と題し、これまで当館が収集した戦争の記憶とそれに関する資料を中心に展示し、みなさんに戦争の記憶と平和への祈りを引き継ぐ機会としていただければと考えています。



▲集団学童疎開の子どもたち。疎開終盤にはみなやせ細った。体験者は疎開の体験を二度と思い出したくないつらい時期といいながら、体験を語り継ぐための博物館の調査に応じてくださった。